

ソン郡・フアムアン郡

上位目標	フアパン県ソン郡・フアムアン郡で実施してきた母子保健向上のための活動が保健行政のオーナーシップの元、持続可能に機能し、質が高まる。
期待される成果	● 2017-2021年に実施された母子保健の成果を改善するための主要な活動が、県・郡保健行政の戦略、計画、予算に含まれる。 ● IMNCI(小児疾病統合管理)等の優先度の高い救命医療が現在のベストプラクティスを基に、最大限に活用され、拡大する。 ● 患者搬送等の救命処置メカニズムが機能するように、各保健医療機関間の迅速なコミュニケーションが向上し、継続される。 ● 各保健医療機関・行政が迅速かつ正確に母子保健データを収集・報告を行い、その情報が村落レベルで母子保健の成果を向上させるために利用することができる。
活動内容	● 県・郡保健行政に対し母子保健データに基づいた年間計画の作成に関する研修を実施する。また、年次戦略・計画・予算作成会議に参加し、提言・助言を行う。 ● 保健医療従事者がIMNCIスキルを継続的に向上でき、IMNCIをスケールアップ・拡大できるように研修やモニタリングを行う。 ● 各保健医療機関間の患者搬送状況をモニターし、自ら常に改善できるプロセスを導入する。 ● 県・郡保健局・病院、小病院職員を対象に母子保健データ収集、集計、管理、分析、報告の研修を実施する。

活動内容・成果

活動 1 母子保健指標の理解促進、指標を織り込んだ年間計画の作成

- 県・郡保健行政、小病院職員を対象に母子保健データに基づいた年間計画の作成や指標の立て方と指標のモニタリングに関する研修を実施。
- 県・郡保健局と定期的に会議を行い、また年次計画作成会議に参加し、県・郡保健局の年間戦略、計画、予算に世界の医療団が実施してきた活動が含まれるよう提言・助言した。

成果

妊産婦検診の受診回数や1歳未満児の予防接種率等といった母子保健指標の理解と、より正確なデータをもとに県・郡保健局年間戦略と計画が作成された。



写真／ソン郡保健局の会議室で郡保健局職員、郡小病院スタッフと討議

ラオス小児医療プロジェクト

活動団体／認定 NPO 法人 世界の医療団

2021 - 2024 第 4 期

2022

活動 2 IMNCI（小児疾病統合管理）のフォローアップ

- 郡病院・小病院におけるIMNCIスーパービジョンのスコアが安定、もしくはスコアが伸びたエビデンスを収集した。これをもとに、県・郡保健局にIMNCIスーパービジョンの継続と別地域拡大への提言を行った。
- IMNCIスーパーバイザーの再研修を実施し、スーパービジョン・スキルのスケールアップを図った。

成果

- 県保健局の年間戦略において、IMNCI研修とスーパービジョンは「5歳未満児の命を守るための優先的な活動」として認められ、またIMNCIスーパービジョンは対象郡の病院の通常の活動に組み込まれた。
- 郡病院のスーパーバイザーのスーパービジョン・スキル、特に小病院スタッフへのフィードバックとIMNCI問題解決のための計画作成に関するスキルが向上した。
- 小病院と郡病院のIMNCIスーパービジョンのスコアが安定、もしくはスコアが伸びた（フアムアン郡・ソン郡小病院平均スコア98-99.5%）スコアは実技試験で測定。



写真／IMNCI(小児疾病統合管理)のフォローアップ研修を行うナンニュー(Nangniew)小病院スタッフとフアムアン郡保健局職員

活動 3 患者の搬送プロセス、搬送実績の収集、分析、運用サポート

小病院と郡病院が過去1年間に使用した搬送書類と搬送プロセスを収集・分析し、書類の内容と搬送のプロセスを改良し、確実に運用されるようにサポートした。

成果

- 世界の医療団、郡病院、小病院共同で作成・改善した搬送書類と搬送プロセスは県・郡病院、小病院が搬送のための公式書類として採用された。また、搬送プロセスは病院の通常の搬送手順に統合された。
- 県保健局は、搬送の重要性の証拠と教訓から得られる継続的なスキルアップとして、救命できたケースと救命に至らなかったケースについて話し合う搬送反省会を提案した。

活動 4 母子保健指標に関するデータ関連の研修、村落住民も交えたワークショップ

- 母子保健戦略・計画改善のため、県・郡保健局職員、小病院スタッフを対象に、母子保健の指標・データの収集、計算、統合に関する研修を実施した。
- 村落の母子保健向上のため、小病院スタッフに村落レベルの母子保健データ収集・分析、また村落へのデータコミュニケーションに関する研修を行った。
- 小病院と村落健康啓発員が村落の母子保健状況を迅速かつ正確に報告するための双方向コミュニケーションを改善し、そのデータに基づいて各村落で母子保健向上のための計画を作成するワークショップを実施した。

成果

- 各レベルの医療機関・行政機関、様々な報告書・報告制度でデータが異なっていることが明らかになり、正しい指標・データに基づいた母子保健戦略・計画を作成するため、県全体でデータの統合を図る必要性が了承された。
- 県・郡保健局職員、小病院スタッフが母子保健の指標を理解し、母子保健データの収集・計算法の統合性ができた（研修前テスト 59%, 研修後テスト 85%）
- フアムアン郡とソン郡機関内のベースラインデータを統合し、このベースラインデータをもとに母子保健指標および郡戦略・計画を見直した。また、国営医療情報システムデータベース（DHIS2）の入力・利用ができるようになった。
- データ計算とDHIS2に正しくデータ入力ができる県レベルの研修者を 2 名育成した。
- 村落住民に母子保健データ共有後、村での健康教育強化の必要性を訴えられた郡保健局職員・病院スタッフは、小病院スタッフが 5 歳未満児予防接種のため、通常年 4 回村落へ出向く際に、村落住民への母子保健教育を含む形で拡大することになった。



写真／フアムアン郡で開催された、村落レベルでの母子保健の問題を話し合うワークショップ 村落健康啓発員、小病院スタッフ、郡保健局職員が参加

サムヌア郡・クアン郡

上位目標	フアパン県対象地域（サムヌア郡、クアン郡）における母と子の健康状態の向上に貢献する。
期待される成果	●保健医療従事者の基本母子医療保健*を提供できるための技術・能力が向上する。 ●村落住民が、母子保健に関する正しい知識を身につけ、自分の健康を守るようにする。 ●母子健康継続のための村落と医療保健施設の連携体制を強化 ●現地保健のステークホルダーの連携が促進される。 ●各保健医療機関・行政が、迅速かつ正確に母子保健データを収集し報告を行い、その情報が母子保健の成果を向上させるために利用される。
活動内容	ラオス山岳僻地に住む女性と子供の母子保健サービスの利用を促進するため、住民側の健康促進活動、保健医療従事者側の能力・技術強化と両者に働きかけることで母子保健向上を目指す。プライマリヘルスケアアプローチを通し、現地の人々の手で健康を守っていけるよう事業を行う。 ●保健医療従事者の母子保健技術を高める研修・モニタリングを実施 ●保健医療従事者がアウトリーチ活動を定期的に行うための技術的・伴走的なサポート ●村落健康啓発員と住民のリーダーの育成や保健教育のやり方を学ぶ研修 ●住民が保健予防の知識を得る健康促進活動のサポート ●保健医療行政が計画・データに基づき、母子保健の活動が進んでいるかモニタリングできるよう研修・サポート

※基本母子医療保健とは - 妊産婦検診、新生児検診、小児ワクチン接種など

活動内容・実施状況

1 「現地保健のステークホルダーの連携を促進する」ための活動

- 各対象郡に郡知事の下、母子保健関係者（医療、保健行政、外務局等別行政、村落）が含まれた「母子保健委員会」が設立された。母子保健委員会に活動計画を共有し、各ステークホルダーの役割、責任、活動への理解を得た。この理解に基づき、活動を実施していくためのコミュニケーション・フィードバックの仕組みを作り、活動モニタリング・スーパービジョンの計画を立てた。

長雨とそれに伴う道路状況の悪化により、クアン郡の6村では実施が叶わなかったが、クアン郡の9村、サムヌア郡の15村で会合を開催。クアン郡の村民300人、サムヌア郡の村民1046人が参加した。



写真／クアン郡ヒンヌップ(Hin-ngeup)村でプロジェクトの全体像を説明する世界の医療団職員

2 「各保健医療機関・行政が、迅速かつ正確に母子保健データの収集・報告を行い、その情報が母子保健の成果を向上するために利用される」ための活動

- 対象村落と小病院での基本母子保健データを収集し、県・郡病院、県・郡保健、小病院スタッフに対し、データの計算法、分析、村落から国レベルへのデータ報告・共有の仕方の研修を行った。また指標の意味、設定の仕方、モニタリング法を学んだ。常にステークホルダーの間で活動進捗や指定にもとづいた正確なデータをモニタリング・共有することで、どのレベルでも母子保健活動が実際に母子保健向上につながっているか確認できる仕組みが整った。

写真／クアン郡保健局会議室でデータ分析などの研修を実施



3 「村落住民が、母子保健に関する正しい知識を身につけ、自分の健康を守れるようになる（オーナーシップの醸成）」ための活動



- 各村を訪問し、村落健康啓発員と住民のリーダーを含む村落保健推進委員会の役割と責任を決定した。その後、村落保健推進委員会のメンバーを民主的に選定した。村落保健推進委員会のメンバーは、これまでのように郡保健局に候補者を挙げて任命してもらうのではなく、村落内で選出されることになったので、より保健のオーナーシップが高まると想定できる。

写真／サムヌア郡ロングマオ(Longmao)村で村民たちが投票する様子

村落保健促進委員会に関しては、両郡合計で24の村で設立。村落保健促進委員会には、村長、議員、村の長老などが含まれている。両郡での村落保健促進委員会メンバーの総数は141人で、うち女性は約25%にあたる36人となった。

また、該当の村落で、村落健康啓発ボランティアが再任、もしくは新たに任命された。両郡での村落健康啓発ボランティアの総数は68人、うち女性は約25%にあたる25人となった。

- 各村落の住民たちに現在の母子保健の状況を理解してもらうため、各村の村落保健推進委員会は郡保健局・小病院職員とともに、村落住民に簡単な現状調査・ニーズアセスメントを行い、その結果を村落住民に共有した。これにより、村落住民は母子保健の現状を理解し、懸念点を理解し合うことができた。



写真／サムヌア郡ユアクン(Hua Kung)村で母子保健のニーズアセスメントを実施

クアン郡の母子保健データの収集に遅れが出ていたが、2023年1月にはデータ収集と入力を終える予定で進行している。

2022年は、2021年から2024年までのラオス小児医療強化プロジェクト 第4期中期にあたる。事業後期に向けて、実りのある活動ができた。